



下野市立南河内第二中学校

平成29年度
第16号

校長室だより

H 30. 3. 23

発行者
上野 保久

今年も感動の卒業式、ありがとうございました。

3月10日、第24回卒業式を、厳粛のうちにも温かな雰囲気で行うことができました。おかげさまで、132人の卒業生は、胸を張って堂々と卒業していきました。

挙行にあたりましては、今年も『みんなでつくる卒業式・入学式実行委員会』が組織され、朝に昼に夕にと、卒業生を送る会および卒業式の準備一色の毎日でした。準備が進みつつあるある日の夕方、式場に入ってみました。式場を飾る桜の花びら一枚一枚には、1・2年生からお世話になった卒業生への感謝と激励のメッセージが書かれていました。また、卒業生からは、先生や後輩への感謝や進んでいく決意のメッセージが書かれていました。

私なりの解釈ですが、私は、卒業式のキーワードは『感謝』と『希望』だと思っています。よく聞かれるこの二つの言葉ですが、人は、人生の節目に、感謝の心を持ち、希望をもって進もうという意欲がわき出る時が何度もあると思います。学校では卒業の時がその最たるものだと思います。

今年も卒業式会場には、感謝の気持ちが満ちあふれていました。それを感じたからこそ、生徒の頑張りを認め、ねぎらい、そして「強く生きてほしい」という励ましの気持ちが今年も生まれてきたのだらうと思います。何度も胸にこみ上げるものがありました。



さあ、修了式！そして、お世話になりました。

卒業式から2週間、学校はとても静かです。ひと学年がいないと、こうも静かになるのかと、毎年思います。1・2年生はとても礼儀正しく、授業にも真剣に取り組み、係り活動などにもかけひなたなく取り組みました。先輩から引き継いだバトンをしっかりたずさえて、頑張っ活動しました。年度始めに思い描いた自分の姿に近づいたのでしょうか。応援しかなかった私ですが、生徒たちの成長ぶりには毎日驚かされていました。うれしい驚きです。生徒たちには、この1年を振り返り、目標を再確認または修正して、新たな気持ちで30年度に向かってほしいと思います。

改めまして、保護者の皆様、平成29年度も本校の教育にご理解ご協力くださいまして、ほんとうにありがとうございました。

表彰式を行いました。(3月23日)おめでとうございます。

表彰式においては、受賞者及び団体は代表者に壇上で手渡しました。

下野教育美術展	金賞	H・N	
〃	銀賞	K・Y	
〃	銀賞	I・M	
〃	銀賞	T・A	
栃木市中学生バドミントン選手権大会	第3位	S・M	
平成28年度「私の推薦する本」	優秀賞	F・Y	
第42回「ごはん・お米とわたし」	作文・図画コンクール	佳作	S・H
下野市教育委員会表彰	優秀優良者	H・Y	
栃木県中体連	卓球	優秀選手賞	I・M
〃	スキー	優秀選手賞	O・K



お知らせ

Thank you !

- ALT (外国語指導助手) のカール先生が、3月いっぱいまで退職されることになりました。本校の英語科の教員と一緒に、とてもユーモアいっぱいでもわかりやすい英語の授業を行っていただきました。気さくで明るく、誠実なお人柄のカール先生は、たくさんの生徒から慕われていました。今後は、奥さんが暮らす長崎県の五島列島に戻り、五島の子どもたちに英語を教えたいそうです。カール先生、お元気で。お世話になりました。



これはおすすめ私の一冊

『生きていてよかった』相田みつを 著 角川文庫 514円

随分以前に東京国際フォーラム内にある「相田みつを美術館」で購入したものです。その時一緒に購入した相田みつをの日めくりカレンダーも我が家にもいつも見えるところに下げてあります。もう何度か相田みつをの本の紹介をしてきました。なぜ相田みつをが好きなのかというと、足利市生まれの著者に親しみを感じると共に、その一言一言が私を落ち着かせ、心をリセットさせてくれる気がしているからです。

～本文より～

この世は わたしがわたしに なるどころ 自分が 自分に ないきる ところ

〈本来の自己〉

いま仮に、私が一万円を出して銀行に口座を作るとします。窓口では、係の女の子が淡々と事務処理をするでしょう。ところが同じ私が、一億円出して同じことをしたとすると、こんどは支店長が飛び出してくて、私はたいへんな扱いを受けると思います。

これは極端な例えですが、一万円持とうが、一億円持とうが、本来の自己(私という人間の本质)は少しも変わらないんです。変わるの銀行の扱い。つまり、自分の外側です。変わる外側に目を向けている限り、本当のいのちの安らぎはありません。本当の安らぎを得るためには、目を自分の外側ではなくて、内側に向けることです。そして、自分が自分になることです。

校長室の窓から



- 「総合的な学習の時間」の研究発表会がありました。15日が2年生、16日が1年生でした。2年生は『下野市について』、1年生は『健康・環境について』という大テーマで、それぞれが疑問、仮設、追究、まとめ、考察と進め、今回の発表に至りました。全部の発表を聞くことはできませんでしたが、どの発表も「へー、そうなんだあ」「へー、そうだったのかあ」という新知識を得ることができました。
私はいつも、授業で生徒に「へー」と思わせたいと思い、その「仕掛け」を作ることに苦心してきました。「へー」は発見の言葉だと思います。だれかにもものを語るとき、「へー」と言わせたい。そう思っているからでしょうか。生徒たちも同じだろうと思いました。気がつくくと、生徒たちの『総合』の発表を聞いて、「へー」と何度もつぶやいていました。保護者もたくさん見に来られていましたが、大きくうなずきながら聞いているおかあさんの「へー」というつぶやきも聞こえてきそうでした。
- 階段を降りる途中に、1枚のちょっとしたしめった感じのティッシュペーパーが落ちていました。あがってきた生徒が「こんにちわ！」と元気にあいさつをしてくれました。あいさつを返す私の手にそのティッシュを見つけ、「あ、それ持っていきます。」と言ってそれを受け取ると、「ありがとう。助かるよ。」と言う私に、さわやかな笑顔を見せて、さっさと行ってしまいました。
清掃の時間に学校の周りのゴミを拾っていると、大人のゴミ(タバコの吸い殻、酒の空き缶など)がたくさん落ちています。悲しい気持ちになります。私もかつて、ゴミを無造作に捨てたことがあります。教育者だから、意識して捨てないようにしています。階段の生徒は、きっと意識しなくてもゴミを捨てないだろうなと思いました。ゴミを拾う子はやがてゴミを捨てない大人になると信じたいです。
- 最後に。私は3月末日をもちまして定年退職いたします。これまで様々面でお引き立ていただきましてありがとうございます。心より感謝申し上げます。

